

地震時・地震後のプレート境界面上のすべり分布

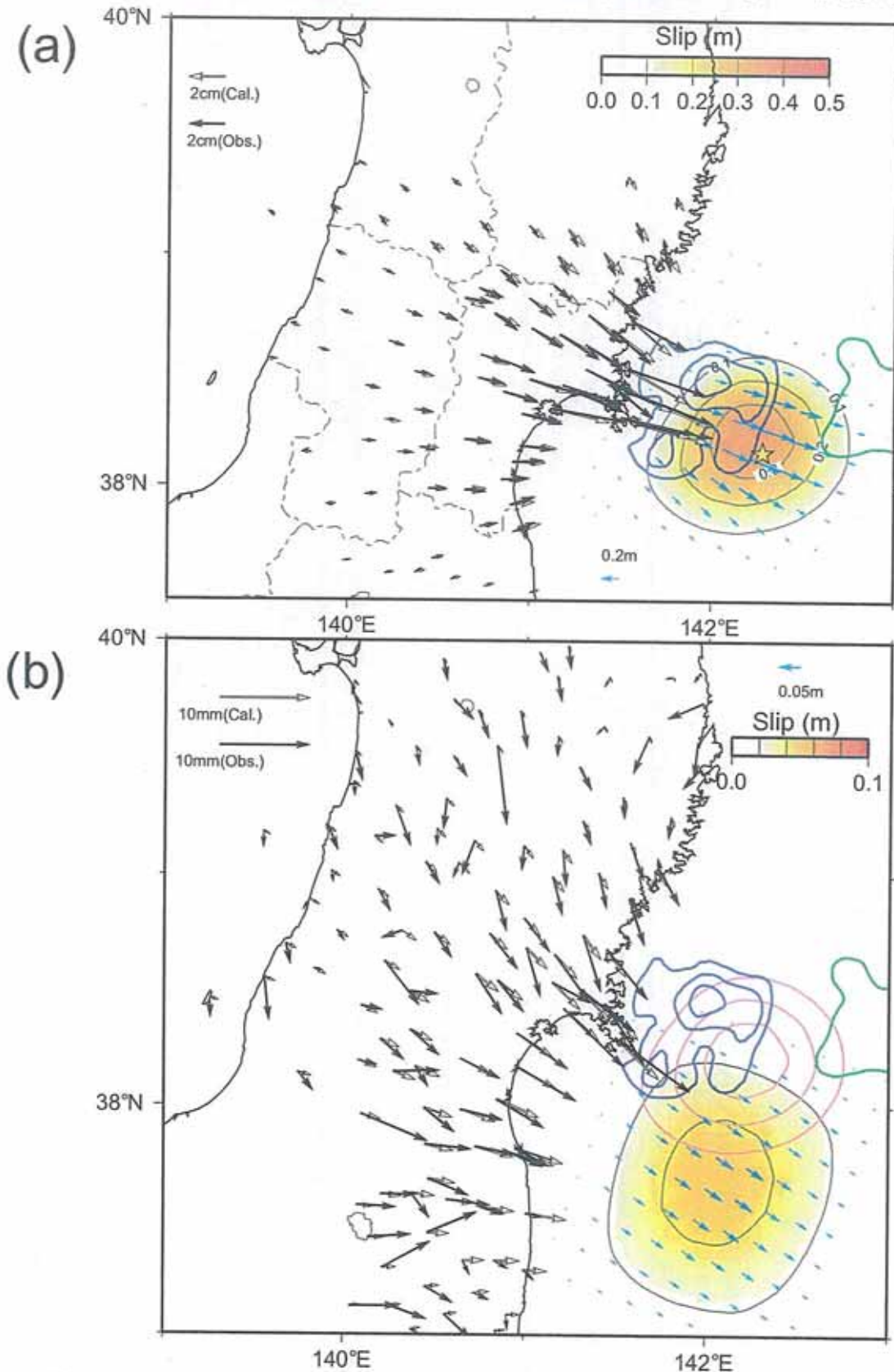


図2. (a) 国土地理院のGEONETおよび東北大学のGPS連続観測点において観測された地震時水平変動(黒矢印)から推定されたプレート境界面上の地震時すべり分布. コンター間隔は0.1mである. 黄色の星印は気象庁による本震の震央を示す. 紫および緑のコンターはYamanaka and Kikuchi (2004)による1978年, 1981年の地震のすべり分布を示す. (b) 国土地理院のGEONETのGPS連続観測点において8月17日~10月22日までの期間に観測された余効変動(黒矢印)から推定されたプレート境界面上のすべり分布. 余効変動の抽出には, GEONETの定常解析F2解から年周・半年周・地震前の経年変化を取り除き, 地震後の期間のデータに直線を当てはめて変位速度を求めた上で日数(67日)をかけた. 推定されたすべりは, Mw6.8(本震のモーメントの約30%)に相当する. 桃色のコンターは上図で示した地震時すべり分布を示す. 上下の図ともすべり分布の推定には, Yabuki and Matsu'ura (1992)のインバージョン法を使用した. また, 白矢印は推定されたすべり分布から計算された変位を示す.